

## 実は身近な話題が満載?! - 続古文書解読入門講座 -

(レポーター：岡野恵美)

当館では「古文書解読入門講座」を平成2年度から、また平成3年度から「続古文書解読入門講座」を開講しています。「続古文書解読入門講座」は入門講座の修了者及びそれに準じる方を対象とし、今年度は7月から3月までの第3土曜日に9回シリーズで開催しました。

学習は入門講座と同様に必ず予習をお願いし、それを前提に講座を展開します。と聞くとなんだか荷が重く感じられるかもしれませんが、予習もまた面白いものです。予習をすることで、なかなか読めなかった文字が読めた時の嬉しさや自分の歴史知識と結びついた時の喜びを感じながら、効果的に学習を進めて頂けることと思います。また、教材としている古文書では当時の書き間違いもあるため、くずし字を解読するにはただ形を覚えるだけではなく内容をくんだ推測が必要なこともあり、その奥深さに心ひかれている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

### 実際にどのような講座なのか覗いてみましょう!!

講座ではまず、取り扱う古文書や文中に登場する地域の歴史に触れ、その後、本文を読み進めます。必要に応じて用例等を用いながら、くずし字について理解を深めます。また、その際に語句の解説やエピソードの紹介もします。最後に、講師(当館研究員)に続き音読をするといった流れの講座です。

#### 受講者インタビュー



公民館で郷土史研究会として活動し、地域の古文書を読んだり、年配の方から昔の話を聞いたりしています。文書館で学んだことを研究会で話したり、研究会の活動中に分からなかったことについて文書館で質問したりしながら地域の歴史について学ぶのは面白いです。

#### 身近な地名の由来についてのひとコマ

『知新集』には定かではないとある「袋町」の町名由来について、かつては戒善寺(かいぜんじ)があった場所であるため、その戒善寺が祀っている大黒天が袋を提げていることから「袋町」となったという説を紹介しました。



#### 図を利用した解説のひとコマ

『江山(こうざん)一覽図』と言えば、それをモチーフにした広島拘留所の壁画を思い出される方も多いのではないのでしょうか。解読課題文中にある「大岸木(おおがんぎ)」について「岸」は現在では「雁」と書いている等の文字解説に加え、文化5年(1808)頃の広島の地図や当時の生活習慣を描いた『江山一覽図』の一部を参考に、「大岸木」がどのようなものか絵図を楽しみながら理解を深めました。ほかにも、写真で現在の風景と比較をしたり、実物資料を間近で見られたりと当館ならではの魅力満載です。

私の場合、古文書を学びたいと思ったきっかけは、地域の歴史が知りたいという思いからでした。著名人やオピニオンリーダー(歴史に影響を与える人)を追った史実だけではなく地域の祭礼や庶民の生活に興味があり、それらを調べていくうちに石碑の文字が読みたい、絵馬の文字が読みたい、大福帳が読みたい……と思うようになったのです。古文書を読むと自分の住んでいる地域の以前の姿をありありと身近に感じられることがあります。それは一見、古く老いたように見える書物から現在に伝わる輝きを感じるようで、生きた資料がこれまで守られてきたことを感慨深く思います。それと同時にこれらのかげがえのない歴史資料を未来へ伝えられるよう、当講座では古文書の解読だけではなくその取り扱い方についても学びます。受講者の皆さんが、それぞれの地域で古文書の保存に向けて活動されることを願っています。

最後に、古文書の解読について興味のある方は、当館ホームページの「インターネット版 古文書講座」もぜひご利用ください。現在、収蔵古文書から12回分の解説と資料紹介をしており、今後も追加していく予定です。これらの取組が、資料の散逸防止や保存管理につながればと思います。